

主題「いただきます」～命を食べる～

1 実践の特徴…視点を複数与えて、道徳で高め合いを行う

本実践の特徴としては、2つの視点から食べ物について考えさせたことにある。

主発問は「食べ物になった生き物は『かわいそうか』『かわいそうでないか』」

視点1 人から見た視点

児童等の思いや感想

かわいそう…29人	<ul style="list-style-type: none"> ・食べられてしまうから。 ・殺されてしまうから。 ・お腹の中で溶かされてしまうから。 ・遊べなくなるから。 など
かわいそうでない…2人	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンバーグの材料の牛だって、命をいただいている。 ・僕も食べないと死んでしまう。

視点2 食べ物から見た視点

食べ物になった生き物の気持ちを考えて、ワークシートの吹き出しに書いてみよう

<ul style="list-style-type: none"> ・残さず食べてくれればいいな。 ・僕を一生懸命食べてね。 ・僕たちを食べて大きくなってね。 ・残さず食べてくれたら、僕は我慢する。 ・栄養がいっぱいあるし、頑張ってるから食べてね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・いっぱい食べて、いい体になってね。 ・僕も君の力になりたいから全部食べて。 ・全部君に食べてほしいよ。 ・おいしく食べてね。 ・ピカピカに食べてね。 ・残されたらやだな。
--	---

最後に一人一人が書いた食べ物に対する感謝の気持ち

<ul style="list-style-type: none"> ・命をくれてありがとう。 ・いつもおいしい給食をありがとう。 ・残しません。いただく命に感謝します。 ・頑張ってる給食を食べて、残さないぞ。 ・牛さんが死んじゃったから残さず食べます。 ・牛さん達の栄養をもらって元気になります。ありがとう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・絶対残さず全部食べてあげるね。 ・ゴメンね。ちゃんと全部食べるから許してね。 ・食べていかないとダメだから食べるけど、感謝してるよ。 ・食べてあなたの分までがんばります。 ・食べ物になってくれてありがとう。
---	--

視点を変えるだけで、食べ物に対する感謝の気持ちが大きく高まった。高め合いに行う手法の一つとして、「複数の視点で考える」についての効果が確認された。

2 実践の成果

(1) 「つかむ」「考える」場面

- ・校長先生が食べる給食の写真を見せることで、一気に関心が高まった。
- ・全員で「いただきます」を唱和してから授業を始めたのは、目当てをつかむのに効果的だった。
- ・絵本の「ハンバーグ」が皿にのっている写真と、「牛」が皿にのっている写真の対比は、食べ物と生き物のつながりを実感出来た。

(2) 「高め合う」場面

- ・「かわいそう」が多かったが、「じゃあ食べないね。32人が食べないと、牛一頭くらい助かるね」と言う教師の揺さぶり発言に、首をかしげ、悩み出す児童がいた。
- ・板書でのYチャートの活用は、児童の意見が見やすくて大変よかった。ネームプレートを貼るという手法は低学年でも出来る。とても参考になった。
- ・机間指導で、まるつけ、声かけをしていたので、その後の挙手が多かった。自信をもって言えているようだった。
- ・隣同士の感想交流の後、それをどのように発表させるかについて、教師の「となりの人の言葉でよかったと思った人」という聞き方は大変よかった。
- ・発表では拍手があり、温かい雰囲気だった。

(3) 「まとめる」場面

- ・今回の授業の教材となった絵本を最後に読むというのはよかった。
- ・教師の説話で、いただきますという本当の意味、「あなたの命をいただいて、私の命に代えさせていただきます」であることを伝えたのはすごく印象に残った。
- ・プリントへの記入の仕方が丁寧で、普段の指導が行き届いていると感じた。

3 課題

(1) 話し合い活動

2年生という発達段階を考え、教師ができる限り多くの子の意見を聞くために、挙手による指名を多く行った。実際ほとんどの子が発言し大変活発な意見交流が図られた。

ただ、「かわいそう」か「かわいそうでないか」については、小集団による意見交流を図ると、偏った意見にならず、もっと「かわいそうでない」という意見が出たのではないか。

(2) 「かわいそうでない」ことを考える他の手法

牛を意識しすぎてしまい、「かわいそう」に流れてしまった。ハンバーグ以外にも、野菜が皿にのっており、野菜にも注目させると違ったのではないか。

(3) 高め合いの他の手法

高め合いについては、小集団や全体など、意見交流の工夫をもっと取り入れるとさらに児童等は活躍できたのではないか。

(4) 道徳的实践力にいかに関わりつけるか

ほとんどの児童が感謝して食べないといけないと実感したが、それが形となって現れるかは難しい。一人一人意識していたとは思いますが、実際その日の給食の残滓量はいつもと変わりなかった。